

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200703		
法人名	エルダーリビング 株式会社		
事業所名	グループホーム エルダーガーデン川棚 ユニット1		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町新谷郷2040-15		
自己評価作成日	平成27年12月5日	評価結果市町村受理日	平成28年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年1月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士が明るく、わきあいあいと毎日仕事に取り組んでいる為、入居者様もその雰囲気伝わり、笑顔溢れる中で、穏やかに過ごされている。</li> <li>・タオルたたみや野菜の下準備など、利用者様ができることには積極的に参加して頂き、また、他の利用者様に教えたりする事で利用者様同士の良い関係が築かれている。</li> <li>・居室以外にもソファ等が設置してあり、利用者様が過ごしたい場所で各々の時間を過ごされている。</li> <li>・毎日体操を行ない、筋力低下の予防等に力を入れている。</li> <li>・全ての居室にトイレ、洗面台が設置してある</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所内は掃除が行き届いており、清潔感に溢れている。居室には、トイレと洗面台が備え付けられており、プライバシーに配慮された空間となっている。代表の新鮮で安心な食材を使った食事を提供したいという強い思いから、現在の運営法人に移行後、食材の購入先を地元の商店街へ変更し、信頼のおける食材確保が実現している。また、事業所の周りに生い茂っていた樹木を伐採したり、居室のリフォームを行っており、環境の整備に配慮している。運営推進会議には、ヒヤリハット報告書を活用しており、再発防止に外部の視点によるアドバイスを積極的に受け入れたいという姿勢は高く評価できる。職員は、介護に関する知識の吸収に熱心であり、地区の研修会へ積極的に参加している。法人の代表者、管理者、職員がそれぞれの立場で、理念である「尊厳ある生活」の実現に向けて取り組んでいる事業所である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「尊厳ある生活の重視」を念頭に置き、日々業務に取り組んでいる。	設立当初からの理念「尊厳ある生活の重視」を運営法人変更後も継続している。事業所は利用者中心の支援が大事であることを再認識している。職員は利用者を人生の先輩として接しており、意見や要望を重視し、その人らしく一日を笑って過ごせるよう理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の七夕交流会や敬老会、清掃活動に参加している。 また近隣の方より野菜の差し入れなどの交流もある。	自治会に加入しており、町内清掃等地域活動に参加している。町の敬老会や七夕祭りに利用者と一緒に参加したり、近隣住民から野菜の差し入れを貰うなど交流がある。また、地域で食材購入するという姿勢があり、各商店と良好な関係を構築できるよう働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開き、民生委員、総代の方にも参加して頂き、課題を一緒に考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、その場で様々な意見を頂き、改善に努めている。	年6回規程のメンバーで実施している。会議では、利用者の近況や行事の報告、メンバーからの意見・要望や助言を貰っている。法人変更後から資料として、ヒヤリハットや事故報告書、研修報告書等を配布し、事業所の状況を伝え、意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、担当者は電話や直接出向いたりして相談、報告を行なっている。	行政担当課とは利用者の状況を伝えたり、制度の改定等不明な点を教えてもらったり、気軽に相談に乗ってもらうなど協力関係を築いている。家族が遠方在住の場合、行政手続きを代行している。また、職員は東彼3町ケアセミナーや隣町のケアセミナーに積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員がセミナー等へ参加し、そこで学んだ事を職員ミーティング時に勉強会を行い他の職員に伝達している。	事業所は、身体拘束廃止の指針を作成しており、職員は拘束をしないケアに努めている。接遇マナーのセミナーを受講した職員が、内部の勉強会で発表し、共有している。気になる言葉遣いがあればその都度、注意しあっている。安全重視のため、玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー等で学び、身体的な事だけが虐待ではなく、声かけ、無視等の精神的なことも虐待になるということをスタッフ一同心にとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用されていないが、今後職員間で理解し、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者、介護支援専門員、計画作成担当者が、契約時に書類を前に内容の説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際や面会時等に、要望や意見などが無いかお伺いしている。また、必要な場合は電話での連絡も行なっている。	家族の訪問時に聞き取ったり、遠方の家族には、電話で要望を聞き取っている。散歩や食事介助についての相談があっている。今回、運営する法人が変更になった際に、調印前に家族へ報告を行っており、その後、食材の購入先を地元の商店へ変更するなど説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員ミーティングの際に、職員の意見や提案をできる場を設けている。	月に1度、夜勤者以外全員が出席して、会議を行っている。ケアや事故、ヒヤリハットに関することをはじめ、季節の行事の計画や反省などが議題である。代表者と職員との面談を実施しており、資格取得に関してアドバイスしている。また、職員からの物品購入や整理整頓について改善提案を反映し、双方で良好な関係を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の習得に応じて、手当てが支給される。それにより、職員の資格習得への意欲向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月様々なテーマについて職員が勉強し、そこで学んだ事を職員ミーティング内にて発表という形で勉強会を行なっている。また、研修会の参加については目に付く場所にファイリングしており、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彼杵3町ケアセミナー、グループホーム協議会等へ参加し、そこで意見の交換や、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の要望や訴えられている事は何なのかを職員全員で考え、御本人と友好的関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅へ伺い、ご自宅での様子や、御家族の思いを詳しく聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族に何を一番不安に思っているかを聞き、それに対してどのように支援していけば良いかを職員全員で考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の負担にならない範囲でお手伝いをして頂き、お手伝いをして頂いた後は、感謝の気持ちを表した言葉かけを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の体調の変化や日々の生活などを面会時や電話にて連絡することで、利用者本人の状態を知っていただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られたり、馴染みの場所へドライブをしたりしている。	入居前の生活歴を本人・家族から聞き取っており、独自のフォームを用いて記録している。友人の訪問も多く、食事に出掛ける利用者もいる。また、神社や寺の檀家仲間の訪問もある。美容室は、行きつけの美容院を利用している他、墓参りや初詣など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で行なえる体操、レクリエーションに参加して頂き、常日頃から利用者全員で楽しく過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も、連絡等あった際には相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	歌が好きの方は、一緒に歌を歌って頂いたり、ゆっくりと自室にて過ごされたい方は居室にてテレビを観て自由に過ごされている。	職員は利用者の居室や風呂で1対1になった際に話し、思いを聞き取っている。利用者が好きなテレビ番組や歌が好きなどなどを把握しており、利用者がどのようにしたら快適に過ごせるのかを常に考えて支援に努めている。発語が困難な利用者に対しては、表情から気持ちを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、御家族、または看護サマリー等を利用し、利用者一人一人のこれまでの生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人に生活パターンチェックシートを作成し、一日の水分量、排泄、睡眠時間等を把握し、快適に過ごして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ミーティング時にケア会議を行ない、本人や御家族、職員の意見も取り入れた介護計画の作成を行なっている。	職員は「気づきノート」を活用し、利用者の毎日の変化を共有している。本人・家族から要望を聞き取り、遠方の家族には電話で要望を聞き取っている。作成した計画は家族に同意を得ている。モニタリングは、3ヶ月に1度実施している。1ヶ月に1度、2ユニット合同の職員会議を開き、職員全員で利用者の状況を把握する仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の介護記録を記入し、普段と様子が異なった場合などは申し送りノートに記入し情報の共有を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにより、職員間で解決できるものはすぐに対応し、即座に対応できないものに対しては、職員ミーティングにて話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催の催し物に参加し、施設以外の方との交流ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員の付き添いにて、各かかりつけ医に定期受診を行なっている。受診の内容については記録を残し、御家族には面会時や必要に応じて電話にて報告を行なっている。	利用者は、それぞれにかかりつけ医を継続受診しており、職員が通院を支援している。家族への結果報告は面会時に行っているが、直ぐに連絡が必要な場合は家族に電話で伝えている。利用者に変化がある時には、看護職員へ連絡し指示を仰いでいる。緊急時の対応フローを作成しており、急変や事故の連絡体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化に気づき、どんな小さな変化でも看護師へ連絡し、指示を仰ぐよう徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った際に、Dr、看護師、ソーシャルワーカー等に現状を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では、Drの説明にて、他の病院へ転院されている為、支援に取り組めていない。	事業所は「重度化対応・看取り介護指針」を作成しており、看取り介護に取り組むこととしている。重度化した場合、医師と家族と話し合い、終末期の意向を確認し同意書を得ている。ただし、職員への終末期に関する事業所内研修が行われておらず、職員には看取りの支援に不安がある。	夜間時は一人体制であり、職員の不安を軽減するためにも、緊急時や終末期に関する研修の実施が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、救急救命の研修に参加しており、心臓マッサージ等の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練を行い、万が一の時に対応できるようにしているが、年間を通して回数がまだ少ない為、今後は回数を増やすと共に、火災のみではなく、災害が起きた際の避難訓練も実施していかななくてはならない。	今年度は7月と11月に消火・通報・避難訓練を実施している。11月には昼間・夜間想定で出火場所を特定せず、火元を探すことから始めている。訓練は事業所のみで行っており、地域住民の参加はない。次回、消防署立会いの訓練を予定しており、その際、自然災害等のマニュアルについて指導を仰ぐ予定である。	職員だけの避難誘導には限界があり、地域住民に事業所の状況を知ってもらうため、避難訓練への参加を呼びかけ、実現に期待したい。また、事業所の立地環境から想定される自然災害マニュアルの作成が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重した言葉かけを行なっている。また、それぞれの利用者に適した声かけを職員が考えながら行なっている。	職員は、人生の先輩であるという尊敬の念をもって利用者への声掛けを行っている。居室への入室、トイレ使用の際は本人に確認を取っており、パッド類は見えないように保管している。個人情報の使用許可に関しては、項目別を選択できる様式にて同意書を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の見守りや声かけの中で、御本人が望まれている事を理解できるよう努めている。また、御本人に確認を取った上での行動を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時々、職員が業務に追われ、利用者より職員の都合を優先している時が見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は同じ服が何日も続かないよう職員も心がけている。髪に関しては、2ヶ月に1回訪問理美容が行なわれ、ほぼ全ての利用者が髪を切って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合った食事の固さ、刻み、とろみ等の変化をつけている。また、可能な方には野菜の皮むきや食器の片付けにも参加して頂いている。	両ユニットが交替で調理している。食材は、地元の商店街から新鮮な肉、野菜等を購入している。地元の特産の野菜を取り入れたり、毎月1日は赤飯を炊き、誕生日にはケーキで祝っている。気候のいい時期には庭でおにぎりを食べることもある。季節毎のおやつや正月のお節など、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎の食事量を「主食/副食」で記録している。また水分量については生活パターンチェック表に記入し、一日の食事量、水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人一人に口腔ケアの声かけを行なっている。ご自身で難しい方に関しては、職員が一部介助など行なっている。また、週に1度義歯消毒を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活パターンチェック表に排泄がある度に記入し、利用者毎の排泄パターンの把握に努めている。	居室にトイレを設置しているため、夜間に限らず、日中も車椅子を使っている利用者を含めて全員居室へ誘導している。利用者にとっては、プライバシーが守られ、落ち着けるよう配慮されていることが窺える。排泄パターンを把握し、早めの誘導によりリハビリパンツから布パンツへと改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にあられる方に関しては、看護師とも話し合い水分や下剤で排便できるよう工夫している。また、朝食時には乳製品を摂って頂き、運動も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週に3日と決めているが、利用者の要望に応じてその日以外にも入浴できる体制作りを行なっている。また、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた変化も取り入れている。	入浴の日は週3回としているが、利用者の体調等を考慮し、臨機応変に対応している。体調の悪い場合は、清拭や足浴を行っている。浴室には大きな暖簾を掛け、利用者にとって目印となるよう工夫している。菖蒲湯を入れたり、近隣の足湯の施設へ皆で出掛けるなど、入浴を楽しむ機会を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、居室で休みたい方は居室で、ソファを使いたい方はソファにて休んで頂いている。日中、夜間問わず、快適に過ごされるよう、室温の管理に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、利用者が服薬されている薬の一覧を挟み、どの薬を飲まれているか把握するよう努めている。症状の変化があった場合には、看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなものや趣味などを本人、御家族に聞き、日々の生活の中で取り入れ、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ、近場や敷地内を散歩して頂いている。また計画を立ててドライブに参加して頂いている。	気候の良い時期には前庭にある藤棚で寛いだり、ベランダを歩いて運動している。近隣を散歩する他、希望者には地元の商店街へ買い物支援も行っている。また季節毎に車で県内の名所に出掛け、利用者によりリラックスしてもらおう機会作りに努めている。正月は、神社へ初詣に行く利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は買物支援を行っていたが、現在は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があった際、御家族へ電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけなどを行い、利用者や来訪者が見て楽しめる空間作りを行っている。	リビングから大村湾が一望できる環境にある。庭には藤棚があり、自然を感じることができる。事業所内には、季節の花や飾付けがあり、心安らぐ空間が広がっている。また、玄関やホール、食堂などにソファを配しており、利用者や訪問者がゆっくり寛げるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ホール、食堂にソファが多く設置しており、お一人で日向ぼっこをされたり。他の方と思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、御家族に相談をして、本人が慣れ親しんだ物を居室に置いて頂いている。	全室にトイレと洗面所を設置している。テレビやタンス、仏壇等本人の使い慣れた馴染みの物の持込みは自由である。毎朝職員が掃除しており、週1回シーツ交換を行っている。西日の強い居室には、よしずを立て、配慮している。退去後、新しい利用者のために居室の全面リフォームした例があり、快適な居室環境に常に心を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を設置し、利用者が自分の部屋であることを理解して頂いている。また、廊下には手すりを設置し片麻痺の方でも歩いて手すりを使い歩けるようにしてある。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200703		
法人名	エルダーリビング 株式会社		
事業所名	グループホーム エルダーガーデン川棚 ユニット2		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町新谷郷2040-15		
自己評価作成日	平成27年12月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士が明るく、わきあいあいと毎日仕事に取り組んでいる為、入居者様もその雰囲気伝わり、笑顔溢れる中で、穏やかに過ごされている。</li> <li>・タオルたたみや野菜の下準備など、利用者様ができることには積極的に参加して頂き、また、他の利用者様に教えたりする事で利用者様同士の良い関係が築かれている。</li> <li>・居室以外にもソファ等が設置してあり、利用者様が過ごしたい場所で各々の時間を過ごされている。</li> <li>・毎日体操を行ない、筋力低下の予防等に力を入れている。</li> <li>・全ての居室にトイレ、洗面台が設置してある</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「尊厳ある生活の重視」を念頭に置き、日々業務に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の七夕交流会や敬老会、清掃活動に参加している。 また近隣の方より野菜の差し入れなどの交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開き、民生委員、総代の方にも参加して頂き、課題を一緒に考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、その場で様々な意見を頂き、改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、担当者は電話や直接出向いたりして相談、報告を行なっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員がセミナー等へ参加し、そこで学んだ事を職員ミーティング時に勉強会を行い他の職員に伝達している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナー等で学び、身体的な事だけが虐待ではなく、声かけ、無視等の精神的なことも虐待になるということをスタッフ一同心にとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用されていないが、今後職員間で理解し、活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者、介護支援専門員、計画作成担当者が、契約時に書類を前に内容の説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際や面会時等に、要望や意見などが無いかお伺いしている。また、必要な場合は電話での連絡も行なっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員ミーティングの際に、職員の意見や提案をできる場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の習得に応じて、手当が支給される。それにより、職員の資格習得への意欲向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月様々なテーマについて職員が勉強し、そこで学んだ事を職員ミーティング内にて発表という形で勉強会を行なっている。また、研修会の参加については目に付く場所にファイリングしており、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彼杵3町ケアセミナー、グループホーム協議会等へ参加し、そこで意見の交換や、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の要望や訴えられている事は何なのかを職員全員で考え、御本人と友好的関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅へ伺い、ご自宅での様子や、御家族の思いを詳しく聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族に何を一番不安に思っているかを聞き、それに対してどのように支援していけば良いかを職員全員で考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の負担にならない範囲でお手伝いをして頂き、お手伝いをして頂いた後は、感謝の気持ちを表した言葉かけを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の体調の変化や日々の生活などを面会時や電話にて連絡することで、利用者本人の状態を知っていただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られたり、馴染みの場所へドライブをしたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で行なえる体操、レクリエーションに参加して頂き、常日頃から利用者全員で楽しく過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も、連絡等あった際には相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	歌が好きな方は、一緒に歌を歌って頂いたり、ゆっくりと自室にて過ごされたい方は居室にてテレビを観て自由に過ごされている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、御家族、または看護サマリー等を利用し、利用者一人一人のこれまでの生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人に生活パターンチェックシートを作成し、一日の水分量、排泄、睡眠時間等を把握し、快適に過ごして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ミーティング時にケア会議を行ない、本人や御家族、職員の意見も取り入れた介護計画の作成を行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の介護記録を記入し、普段と様子が異なった場合などは申し送りノートに記入し情報の共有を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにより、職員間で解決できるものはすぐに対応し、即座に対応できないものに対しては、職員ミーティングにて話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催の催し物に参加し、施設以外の方との交流ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員の付き添いにて、各かかりつけ医に定期受診を行なっている。受診の内容については記録を残し、御家族には面会時や必要に応じて電話にて報告を行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化に気づき、どんな小さな変化でも看護師へ連絡し、指示を仰ぐよう徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った際に、Dr、看護師、ソーシャルワーカー等に現状を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では、Drの説明にて、他の病院へ転院されている為、支援に取り組めていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、救急救命の研修に参加しており、心臓マッサージ等の訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練を行い、万が一の時に対応できるようにしているが、年間を通して回数がまだ少ない為、今後は回数を増やすと共に、火災のみではなく、災害が起きた際の避難訓練も実施していかなくてはならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重した言葉かけを行なっている。また、それぞれの利用者に適した声かけを職員が考えながら行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の見守りや声かけの中で、御本人が望まれている事を理解できるよう努めている。また、御本人に確認を取った上での行動を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時々、職員が業務に追われ、利用者より職員の都合を優先している時が見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は同じ服が何日も続かないよう職員も心がけている。髪に関しては、2ヶ月に1回訪問理美容が行なわれ、ほぼ全ての利用者が髪を切って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に会った食事の固さ、刻み、とろみ等の変化をつけている。また、可能な方には野菜の皮むきや食器の片付けにも参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎の食事量を「主食/副食」で記録している。また水分量については生活パターンチェック表に記入し、一日の食事量、水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人一人に口腔ケアの声かけを行なっている。ご自身で難しい方に関しては、職員が一部介助など行なっている。また、週に1度義歯消毒を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活パターンチェック表に排泄がある度に記入し、利用者毎の排泄パターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にあられる方に関しては、看護師とも話し合い水分や下剤で排便できるよう工夫している。また、朝食時には乳製品を摂って頂き、運動も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週に3日と決めているが、利用者の要望に応じてその日以外にも入浴できる体制作りを行なっている。また、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた変化も取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、居室で休みたい方は居室で、ソファーを使われない方はソファーにて休んで頂いている。日中、夜間問わず、快適に過ごされるよう、室温の管理に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、利用者が服薬されている薬の一覧を挟み、どの薬を飲まれているか把握するよう努めている。症状の変化があった場合には、看護師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きなものや趣味などを本人、御家族に聞き、日々の生活の中で取り入れ、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ、近場や敷地内を散歩して頂いている。また計画を立ててドライブに参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は買物支援を行っていたが、現在は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があった際、御家族へ電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけなどを行い、利用者や来訪者が見て楽しめる空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ホール、食堂にソファが多く設置しており、お一人で日向ぼっこをされたり。他の方と思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、御家族に相談をして、本人が慣れ親しんだ物を居室に置いて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を設置し、利用者が自分の部屋であることを理解して頂いている。また、廊下には手すりを設置し片麻痺の方でも歩いて手すりを使い歩けるようにしてある。		